

11月5日(本会議) — 7日まで(分科会、WG)

4日打ち合わせ・プレゼン資料作成

5日本会議

6日クラシフィケーション分科会

7日地域プロモーション分科会、ブラインドセーリングWG

<会議全体のサマリー>

今回のパラ・インクルーシブセーリング委員会では、年間活動の総括とともに、パラリンピック復帰戦略、分類制度の大幅な見直し、参加拡大に向けた取り組みなど、競技の将来に関わる重要事項が幅広く協議された。委員会は「パワー・インクルーシブ・セーリング戦略 2024-2029」の2年目として、参加国数の増加やIDPの拡充、主要国際大会の開催状況を確認し、世界規模でのインクルーシブセーリング推進に進展があったことを共有した。特に、ブリスベン2032パラリンピックへの復帰申請に向けた参加実績の積み上げや、IPCからのフィードバックを踏まえた競技プログラム案の検討が大きなテーマとなり、84名を想定した新たな種目構成案や、視覚障害・知的障害カテゴリーの扱いが議論された。

分類(Classification)では、2025年IPC分類コードに準拠するための全面的な体制整備が求められ、新しい「基礎健康状態評価」の追加、対象障害カテゴリーの拡大、再分類の実施など、競技の信頼性を高める改革が進められている。また、アンチドーピング対応の強化、AIを含むテクノロジー活用、リモート分類の試行など、競技運営の近代化に関わる取り組みも共有された。さらに、各国でのイベント開催報告や、スペシャルオリンピックを含むグラスルーツレベルの活動が紹介され、セーリングが高支援ニーズのアスリートに貴重な競技機会を提供していることが改めて確認された。

さらに今回の会議では、パラリンピック復帰の可否を左右する「艇種の選定」が極めて重要な論点として浮上した。1人乗り、2人乗り、高支援ニーズ、視覚障害、知的障害など、障害の種類と競技特性に応じてどの艇を採用すべきかという問題は、競技の公平性、運営コスト、国際普及度、柔軟な設定変更の可否など多面的な要素に関わり、非常に難しい判断が求められている。複数のイベントで同一艇種を使用することでコストや効率性を高める案が提示される一方、障害特性に合った艇の選択は不可欠であり、競技の本質と現実的な運営条件との間で慎重な調整が必要であることが強調された。

全体として、パラリンピック復帰を最優先課題としながら、

①艇種選定、②参加拡大、③分類制度改革、④国際的な存在感の強化

という複数の課題を同時に前進させていく必要性が示された会議となった。

<個別項目>

年間活動報告

- ・ パラセーリング委員会にとって大きな成長の年であった
- ・ 「パワー・インクルーシブ・セーリング戦略 2024-2029」の2年目を実施中

- ・ 参加拡大、パスウェイ強化、インクルーシブスポーツのグローバルリーダーとしての地位確立を推進
- ・ 34 カ国がパラまたはインクルーシブイベントに参加
- ・ インクルーシブ開発プログラム(IDP):5 回実施、184 名のセーラー・コーチが参加
- ・ 新興国への支援を継続

主要イベント

- ・ アジア・インクルーシブ・セーリング・シリーズ(第 2 回、インド開催)
- ・ バーカー・ラナ・ユーロサウス・インクルーシブ・ヨーロッパ選手権
- ・ 世界セーリング・インクルーシブ選手権(来月オマーンで開催予定)

クラシフィケーション・フレームワーク

- ・ 2025 年 IPC クラシフィケーションコードに沿った分類フレームワークの強化を継続
- ・ タウンホール、セラーズフォーラム、ニュースレターにより透明性を向上

パラリンピック復帰に向けて

- ・ ブリスベン 2032 パラリンピックへの復帰申請準備を進行
- ・ 参加実績のエビデンス収集が重要

IPC キャンペーン報告(スコット氏)

IPC 本部訪問

- ・ 10 月 9 日にドイツ・ボンの IPC 本部を訪問(ハナ、グラハム WSCEO,スコット(広報担当))
- ・ スポーツリード、クラシフィケーションチーム、アンチドーピング担当者と面談

IPC からのフィードバック

- ・ 参加の堅牢性が最優先
- ・ ジェンダーバランスの重要性
- ・ 実施可能性の確保

今後の展望

- ・ 11 月 20 日の IPC 理事会選挙後が次のマイルストーン
- ・ アンドリュー・パーソンズ会長、レイラ・マルケス副会長らと協議を継続

◆Classification 報告(ハナ氏)

IPC 分類会議への参加

- ・ 世界セーリング分類責任者ヘレン・マッケンジー氏と IPC 分類会議に出席

- 新分類コードへの対応を協議

ユルゲン・シュイ博士の受賞

- 国際分類官ユルゲン・シュイ博士が IPC より表彰(1996 年から分類に携わる功労者)

IPC ヘルスチェック

- 287 項目の質問に回答が必要
- 提出期限:11 月 30 日
- 完全準拠期限:2026 年 7 月

新分類プロセス

- 「基礎健康状態評価(Underlying Health Condition Assessment)」が新たに追加
- プロセスの流れ:
 - 基礎健康状態評価(新規)
 - 競技会での身体分類
 - 観察評価
 - 最終分類決定

対象障害の拡大

- 四肢長差異
- 低身長
- 知的障害

新システム導入

- Global Core ソフトウェアを導入(馬術・パラバドミントンで使用実績)
- データセキュリティ向上
- アスリート利便性向上
- World Sailor ID と連携

再分類について

- すべてのアスリートが再分類を受ける必要
- ルール変更に伴う措置

アンチドーピング報告

現状

- IPC よりパラアスリートのテスト不足を指摘
- 現在は四半期ごとのランキングに基づき 2 名が登録テストプールに登録

教育活動

- IDP での教育を実施
- World Sailing Academy でオンライン教育
- オマーン大会でも教育を実施予定

◆パラリンピック復帰に向けた競技プログラム検討

提案されたイベント構成(合計 84 名)

- 1 人乗り・高支援ニース:男女各 6 名(12 名)
- 1 人乗り・身体障害:男女各 10 名(20 名)
- 1 人乗り・知的障害:男女各 6 名(12 名)
- 2 人乗り・身体障害:混合 12 チーム(24 名)
- 2 人乗り・視覚障害:混合 8 チーム(16 名)
- ボード種目:検討中

主な議論点

視覚障害カテゴリー

- 歴史的には身体障害セーラーと共に競技
- IPC は独立カテゴリー扱いを推奨
- テクノロジーを活用したマッチレース提案もあり

ジェンダーバランス

- 現在の分類リスト:女性 25%、男性 75%
- 女性セーラーの確保が課題
- 2 人乗り種目は混合チーム想定

コスト効率・持続可能性

- 同一艇種の複数イベント使用を検討
- シート取り外し等、柔軟設定が可能な艇種が有利

参加国数とメディア露出

- 1 人乗り種目増加で参加国が増える

- ・ 参加国増加により視聴者・関心も増加
- ・ 大陸予選・アジア大会の重要性が高まる

知的障害カテゴリーの課題

- ・ スペシャルオリンピックスでは IQ ベースの分類
- ・ ダウン症、自閉スペクトラム症など分類が複雑
- ・ 過去の不正事件を踏まえエビデンスベースの構築が必要

全体方針

- ・ 「まずは参入することが最優先」で一致
- ・ 完璧さより復帰実現を優先
- ・ 復帰後の改善・拡大を目指す

イベント報告

アイルランド・ウォータースポーツ・インクルージョン・ゲームズ

- ・ 7 年間継続開催
- ・ 約 300 名のボランティアが参加(ほぼ 1 対 1 の比率)
- ・ 完全インクルーシブイベント
- ・ 子ども、大人、家族に水上スポーツ機会を提供
- ・ 複数のウォータースポーツを包括

インド AISS(萩原)

- ・ 第 2 回の開催・50 名／13 か国の参加があった
- ・ エントリフィー、国内交通費、国内宿泊費、食費が全て無料
- ・ 16 艇の 2.3 と、5 艇の 303 を使いこなしてローテーションで 4 日間で 30 レース
- ・ 保有艇が少なくても大会を開催できると証明→あらたにホスト国を名乗り出るところも
- ・ アジア選手のランキング反映は大会派遣へ各国で好循環

その他の報告事項

VISTA 会議(IPC が 2 年に一回行うパラスポーツの会議)

- ・ 12 月にカイロで開催予定
- ・ オーストラリア、香港の参加者がパラセーリングと障害分野で発表予定

リモートクラシフィケーションの試行

- ・ ベンチャーコネクト世界選手権でリモート分類を試行

- 日本のクラシファイアーがオンライン参加
- AI 分類の可能性も検討(サッカーで試行事例あり)

スペシャルオリンピックス・セーリングプログラム

- 26 カ国で実施
- カナダなどでセラピューティック型プログラムも多数

高支援ニーズアスリートの機会

- 高支援ニーズアスリートのスポーツ機会は限定的
- 車いすラグビー、ボッチャなど室内中心
- セーリングは屋外でアドレナリンを感じられる貴重なスポーツ
- IPC に独自性を理解してもらう必要

装備・艇種に関する研究報告

- 放送安定性
- コスト
- インクルーシビティ
- 参加状況
(評価結果は委員会に共有予定・機密扱い)

今後のスケジュール

- 11 月 11 日:クラシフィケーションチーム会議
- 11 月 20 日:IPC 理事会選挙
- 11 月 30 日:IPC ヘルスチェック提出
- 12 月:VISTA 会議(カイロ)
- 来月:世界セーリング・インクルーシブ選手権(オマーン)
- 2026 年 2 月頃:新分類ルール承認開始
- 2026 年 7 月:新分類コード完全準拠期限
- 競技プログラム案についてオフラインで継続検討
- WhatsApp 等で意見交換を継続

以上